

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 20 日現在

機関番号：87101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520794

研究課題名(和文)近代日本における企業家の社会史 - 政治・経済・文化 -

研究課題名(英文)Entrepreneur's social history in modern Japan-politics, economy and culture-

研究代表者

日比野 利信 (Hibino, Toshinobu)

北九州市立自然史・歴史博物館・その他部局等・その他

研究者番号：90372234

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：北九州を代表する企業家で「地方財閥」に発展した安川敬一郎および安川・松本家を対象として、企業家の経済・政治・文化活動を総合的・多面的に分析した。

1) 経済活動：安川・松本家の事業展開や経営状況について、資産運用、朝鮮半島での事業、日中合弁会社の「九州製鋼」の経営を中心に検討した。2) 政治活動：系列企業出身の地方議会議員に注目し、地域政治と「地方財閥」の関連を明らかにした。また安川が政治活動を行った福岡市の政治状況について、特に詳細に明らかにする端緒を開いた。3) 文化活動：美術品収集、能楽稽古、避暑、旅行文化などを検討し、企業家の文化史的役割を考察した。

研究成果の概要(英文)：The economic, political and cultural activities of entrepreneur were analyzed synthetically and multilaterally targeted for Keiichiro Yasukawa, Yasukawa and Matsumoto families who developed into "local convine" in Kita-kyushu.

(1) Economic activity: Business expansion of Yasukawa and Matsumoto famili and management circumstances were considered focusing on an asset management, business at Korean Peninsula and management of Japan and a Chinese joint company "Kyushu steelmaking". 2) political activity: We paid attention to local assemblymen from the affiliated company and made it clear about concerning of "local plutocracy" in area politics. The beginning done clearly in detail specifically was held about the situation of politics of Fukuoka-city that Yasukawa did political activity.3) cultural activities: Yasukawa's artwork collection, Noh rehearsal, summering and travel culture were considered and the cultural history-like role of the entrepreneur was considered.

研究分野：日本近現代史・地域史

キーワード：地方財閥 地方企業家 安川敬一郎 安川・松本家 地域政治 日中合弁事業

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 17～18 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「地方都市の都市化と工業化に関する政治史的・行財政史的研究」(研究代表者有馬学)と、成果である有馬学編『近代日本の企業家と政治 安川敬一郎とその時代』(吉川弘文館、2009 年)の進化・発展をめざして企画された。

同書は「第一に「地方財閥」の雄であり、中央の政財界とも深い関係を有した安川敬一郎の経済・政治活動を明らかにすること、第二に北九州地域の都市を主たる対象に、近代日本の都市化・工業化における地方都市の位置と機能を明らかにすること」を課題としていた。この課題に接近するため、従来部分的な利用にとどまっていた安川家資料(北九州市立自然史・歴史博物館所蔵)の全体について整理・調査を行い、それに基づく共同研究を実施して以下のような成果を挙げた。

1) 安川敬一郎が地方企業家から「地方財閥」に発展する経緯・理由について、経営帳簿・資産台帳などの一次資料を分析し、企業経営や資産運用を中心に、経営外の動向を含め明らかにした。

2) 大正時代を中心とする安川敬一郎の政治活動について、中央政界・地方政界の中での位置や独自の政治理念と構想などを日記や書簡などの一次資料により明らかにした。

3) 安川敬一郎と地域社会の関係について、インフラ整備や市政・町政との関係を中心に、日記や議会議事録、新聞資料を駆使して検討した。

しかし、1)については、「地方財閥」となった大正以降の安川・松本家の経営動向は未検討のまま残されている。また麻生家などをはじめとする他の「地方財閥」との関係についての比較研究も今後の課題である。2)については、得られた新知見は少なくなかったとはいえ、独自の人脈と構想を持った安川敬一郎の政治活動を中央・地方政治史の中に位置づける作業はこれからである。安川の政治活動が本格化したのは大正時代であるが、明治時代の政治動向も検討の対象とすべきである。3)については、前掲論文集の第二の課題にも関わる問題であるが、安川・松本家と地域社会との関係については、いまだ研究は端緒についたに過ぎない。この点について、研究代表者の日比野利信は「安川敬一郎と北九州・福岡」(『福岡地方史研究』48、2010 年)を発表し、安川敬一郎と「地方」との関係について大まかな素描を行った。日比野は「安川は「地方」を拠点に活動を行いながら「地方」を超越し、併せて「中央」と密接な関係を築きつつ従属的ではない対等的な姿勢を保持した」と論じ、彼の企業家としての財力・人脈・行動力・情報力の「蓄積」と相まってはじめて「財閥」たりえたのではないかと展望した。安川・松本家が「財閥」たり得た要件を総合的に検証することは、本研究

に残された大きな課題である。

2. 研究の目的

本研究は、北九州を拠点に活動した企業家で、日本を代表する「地方財閥」である安川・松本家(安川敬一郎・松本健次郎父子など)について、経済活動のみならず、政治的・文化的・社会的活動といった多様な側面から、総合的に研究することを目的とする。本研究を通して、近代日本の企業家の多面性を明らかにするとともに、彼らが地方を基盤としつつ、国内にとどまらず、植民地や海外にまでその活動の領域を拡大していった背景を探る。

その際の基本資料となる未公開の安川家資料と松本家資料(ともに北九州市立自然史・歴史博物館所蔵)については、詳細な整理を行い、データベースを構築して、一般に公開することを目指す。

3. 研究の方法

【経済活動】

本研究は有馬編 2009 の成果をふまえて、旧福岡藩士である安川・松本家が石炭企業家として成長できた背景の分析と、大正期以降の「地方財閥」としての発展過程について本格的な検討を行う。このうち前者については、松本健次郎の義曾祖父である松本平内が福岡藩の石炭専売制の主導者であった点に注目し、江戸時代以来の炭鉱関係者や商人との関係と、石炭専売制の理念と実態などが、安川・松本家の初期の経済活動に与えた影響について検討する。後者については、石炭業以外の企業経営や朝鮮半島や中国(満洲)など海外における農場・炭鉱経営にも注目する。いずれも安川家と松本家の関係を重視しつつ、「中央財閥」や他の「地方財閥」、企業家との比較も含めて、安川・松本財閥の構造を捉え直したい。また本研究に際しては、今回はじめて調査・研究対象となった松本家資料や、麻生家文書(九州大学記録資料館産業経済資料部門所蔵)が重要な史料となる。

【政治活動】

前述した通り、安川敬一郎の独自の政治理念と構想を中央・地方政治の中に位置づけていくため、『安川敬一郎日記』をはじめとする安川家資料の精読と、『麻生太吉日記』や野田卯太郎文書(九州歴史資料館所蔵)、野田家文書(みやま市教育委員会所蔵)、古島一雄関係文書(国立国会図書館憲政資料室所蔵)をはじめとする関連史料の博捜・研究を行う。その際、安川の対外観や対外政策をめぐる政治活動に、とくに注目することにしたい。

【文化活動】

政財界の有力者は同時に時代を代表する文化人でもあった。安川敬一郎・松本健次郎も例外ではない。企業家が果たした文化面での役割や、企業家の文化史的意義という観点から、次の 2 点を中心的に検討する。

a. 美術品収集と鑑賞 『安川敬一郎日記』から、安川が政財界の有力者・文化人と交際する中で、さまざまな美術品に接していることが確認できる。収集した美術品の一部は安川家資料の中に残されている。本研究では、安川家資料と旧松本家住宅（国重文）に伝わる美術品の整理・調査を行うとともに、安川が接した美術品を追跡調査する。

b. 旅行と避暑 『安川敬一郎日記』から、明治時代の安川は毎年夏の一ヶ月間、各地に避暑に赴いたこと、それ以外にも折々で旅行に出かけたことがわかる。一般的に人びとが旅行に行く大正後期～昭和初期とは異なり、ごく限られた階層のみがこのような旅行を行った。本研究では、安川敬一郎の旅行・避暑を追跡しながら、明治時代後半の旅行・避暑文化のありようと、その中で企業家の存在意義について検討する。

【社会活動】

安川敬一郎は私立明治専門学校を創立したが、その教育理念を日本近代教育史に位置づけた研究はいまだ不十分である。安川が儒学者の家に生まれたことに注目し、その教育観について検討する。

本研究は安川家資料や松本家資料といった第一級の未公開史料群を駆使し、「地方財閥」と呼ばれる地方に拠点をおく大規模な企業家の実態を総合的に明らかにしようというほぼはじめての試みである。このような独創的な試みを成功させるために、日本近代の経済史、政治史、思想史、文化史研究者のみならず、アジア史や近世史の専門家をも加えて、強力な共同研究体制を構築した。こうした総合性を本研究では「社会史」という用語で表現している。政治・経済・文化を包摂する総合的な「社会史」という観点から、企業家の実態に迫るという方法にこそ、本研究の最大の特徴がある。安川家資料・松本家資料の整理と公開によって、今後の地方企業家・地方財閥研究の発展に寄与することも期待できる。

4. 研究成果

本研究において、資料面では『安川敬一郎日記』の翻刻・刊行が進んで、日記の利用が促進される中で、美術・骨董および能楽関係記事が一覧化され、旅行についてもその概要が示された。また安川家資料（北九州市立自然史・歴史博物館所蔵）のうち安川家伝来の美術品（書画）について調査が行われ、目録が提供された。安川家の文書資料については前回の共同研究で調査が行われ、仮目録が作成されたが、今回の共同研究でもさまざまに活用された。また松本家資料（北九州市立自然史・歴史博物館所蔵）についても概要調査が行われ、本研究に活かされた。さらに安川敬一郎・貝島太助と並んで「筑豊御三家」と称される麻生太吉に関わる膨大な麻生家文

書（九州大学記録資料館産業経済資料部門所蔵）について、三輪宗弘教授のご協力により調査の端緒を開くことができた。

本研究の成果は「1 研究報告」「2 史料紹介」「3 調査報告」に分けて報告されている。第一に安川・松本家の事業展開について、中村尚史氏は前回に続く第一次世界大戦・戦後の安川・松本家の資産運用について詳細に明らかにしている。永島広紀氏は安川・松本家の基幹会社である明治鋳業が大正時代に進めた朝鮮半島での鋳山・農場経営について検討している。久保田裕次氏は大正から昭和初期にいたる日中合弁会社九州製鋼の経営状況を当時の製鉄・製鋼業の動向の中で検討し、安川・松本家における同社の意味を探っている。こうして明治後期から大正・昭和初期にいたる安川・松本家の事業展開や経営状況が子細に、また一貫したかたちで明らかになってきた。それは産業・経済史のみならず、政治・外交史、対外関係史にまでおよぶ射程を有している。

政治史では松本洋幸氏が「地方財閥」と地域社会を媒介する「会社議員」に注目して、地域政治研究に新しい視点や方法を提示している。また季武嘉也氏は麻生家文書「安川氏福岡市立候補に関する書類」により、大正6年の第13回総選挙における福岡市選挙区の動向について、安川擁立をめぐる麻生太吉等と安川・松本の交渉を中心に紹介している。日比野は麻生家文書の調査により、麻生太吉宛安川敬一郎書簡がとりわけ大正前半に多く残されていることを指摘した。『安川敬一郎日記』と『麻生太吉日記』があり、関係資料は少ないが安川家文書と膨大な麻生家文書があり、他の関係者の資料や新聞資料が加わって、他に類例のないほどの密度で大正時代の福岡市の政治状況や政治動向が判明するだろう。それは国政選挙だけでなく地域政治にもあてはまる。今後の研究が期待される。

近年企業家の美術品収集や茶の湯愛好など文化史的役割に注目した研究が進展している（熊倉 1997、斎藤 2012、志村 2011、田中 1981、東京人編集室 2010、中野 2015 など）。本研究では富岡優子氏が安川敬一郎の美術品収集と安川家の伝来作品について、杉山未菜子氏が安川敬一郎の能楽について検討している。また日比野は企業家などが先駆的に担った近代の旅行文化について言及している。いずれも他の企業家や同時代人との比較も含めて、さらなる研究の発展が求められる。

以上のように、地方企業家から「地方財閥」に成長した安川敬一郎および安川・松本家について多面的な視点・分野で研究が進展している。それらを総合した安川敬一郎の伝記的研究が待たれる。日比野は日記を欠き、資料的制約の大きい安川の青年時代について、後の回顧的文章の語りに注目して接近している。また地方を拠点に活動する安川敬一郎にとって宿命である「旅」という視点によって、安川の生涯を追いかけてみようとしている。今

後安川の伝記的研究および総合的研究のさらなる進展を目指したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

日比野利信編 2015
近代日本における企業家の社会史
平成24年度～平成26年度科学研究費
補助金(基盤研究(C)) pp1-216

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日比野利信
(北九州市立自然史・歴史博物館学芸員)
研究者番号：90372234

(2) 研究分担者

中村 尚史
(東京大学社会科学研究所教授)
研究者番号：60262086

(3) 連携研究者

季武 嘉也
(創価大学文学部教授)
研究者番号：40179099

永島 広紀
(佐賀大学文化教育学部准教授)
研究者番号：50315181

山口 輝臣
(九州大学人文科学研究院准教授)
研究者番号：20314974

富岡 優子
(北九州市立自然史・歴史博物館学芸員)
研究者番号：20508957

(4) 研究協力者

有馬 学
(九州大学名誉教授、福岡市博物館館長)
柴多 一雄
(長崎大学経済学部教授)
五百旗頭薫
(東京大学社会科学研究所教授)
松本 洋幸
(横浜市史資料室専門研究員)
榎 一江
(法政大学大原社会問題研究所研究員)
久保田裕次
(日本学術振興会特別研究員)
杉山未菜子
(福岡市博物館学芸員)